



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

バッタの大群・洪水・パンデミック

アフリカはいま、「バッタの大群・洪水・パンデミック」の三重苦に襲われている 【2020年6月21日】

気候変動と今春の激しい雨が相まって、アフリカではバッタが大量発生している。この大群により、ケニア、エチオピア、ソマリアの穀物は一掃されてしまった。あとに残るのは、何世代にもわたって経験されたことのないほどの「破壊」の痕跡だけだ。

バッタの群れは、この数カ月で急速に北に向けて拡大し、オマーン湾を越え、イラン、パキスタン、インドにも侵入し始めている。国連食糧農業機関 (FAO) は、これらの地域におけるバッタ、豪雨、そして新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる経済低迷の三重苦を、「食糧安全保障を脅かすかつてないほどの脅威」と位置づけた。

「農民たちは、バッタの害、季節性の洪水と激しい雨、そして新型コロナウイルスによる制約という三重の脅威に苦しめられています」と、国際協力団体オックスファムのリディア・ジゴモは言う。ジゴモは「アフリカの角」(ソマリア全域とエチオピアの一部) 地域、東・中央アフリカを担当する地域ディレクターである。「都市や町の間での移動が制限されることから、農作物を運ぶことが難しくなっているのです」 WIRED(US)より



ケニアの牧場でバッタの大群を追い払おうとしている男性



サバクトビバッタの成虫は世界で最も破壊的な移動性害虫の一つ。自身の体重と同じ約2グラムの植物を1日で食べることができる。2020年1月以降、ケニアは過去70年で最悪の大発生に見舞われている。専門家たちは、バッタの到来によって、東アフリカの最大2500万人が食料不足に見舞われる恐れがあると予想している。

新型コロナウイルスの影響が続く中、間接的な被害も拡大をしているそうです。例えばこの70年に一度の危機といわれる蝗害(こうがい)を防ぐためには各国からの多額な支援金が必要となります。しかし新型コロナウイルスで各国の景気は冷え込んでおり、寄せられた支援額が十分ではないそうです。つまり、各国の手が回らない状況は、バッタの大群にとって勢力を広げやすくする要因になっているということです。

シンガポールではフェイズ2となり、塾でも子どもたちと会えるようになりました。子どもたちがみんな笑顔で通塾してくれるので、私たちも心から幸せを感じる日々です。この当たり前の幸せが続くように願いながら、今世界で起こっていること、これから起こりうることにも引き続き目を向けていきます。(石川)